市政、地区の問題や要望で話し合い

第四回市政モニターこん談会から

五十三年度市政モニターの締めくくりの〝こん談会〟が、三月二十九日、市役所会議室で行われました。

当日は、市政モニター十五人が出席され、国沢助役、唐崎企画財政課長らと意見交換。会では、財政問題（とくに五十四年度予算）、空港や同和など諸問題の説明が行われたあと、市政のことや地区のもつ問題、要望などがうちとけたふん囲気のなかで話し合われました。以下、そのまとめをお知らせします。

□空港拡張の現況はどうなっているのでしょう。

■用地買収は県が直接行っていますが、約半分の四二％が終っているようです。代替地の希望者や提供者もあり、順調といえる状態のようです。

市がタッチしているもので、防音工事や農道・水路の整備がありますが、これに要する経費は市の税金を使わずにすむようにしています。

□空港が拡張された場合、周辺は騒音のために「過疎（かそ）」になりかねません。市民の利益を守るという立場から、市役所に、周辺地域の発展を考える機構づくりが必要だと思いますが？。

■四十六年の決定告示以来、県が土地利用計画を進めていますが、まだ具体化していないようです。

騒音を離れる施設を整備すれば何か企業誘致も可能ではないかとも思いますが……。

□野田地区は、ジェット化した場合、騒音が最もひどいとの話もきますが、防音工事はしていただけないのですか。

■今行っている工事は現在の飛行場を対象としたものですから、残念ですが野田ははいっていません。拡張された場合は改めて検討されることになるでしょう。

□防音工事をするのはいいが、その後の維持費を、学校の場合父兄の負担になっている所があるときいていますがどうでしょうか。

■個人の家には今のところ維持費は出ませんが、学校などの公共施設は公共団体が負担すべきだと思います。

■同和対策については、今後三年間の特別措置法延長により、見直しと充実をはかるため、住宅や道路、水路などの整備を行います。

そのほか市制二十周年ということで十分ではありませんが図書館が今の水道局を手直しして実現します。移動図書館の要素も併せてもちます。

文化財の保存がクローズアップされていますが、できるだけ市の経費を節約して、国の指定などによりつとめたいと思っています。

□し尿処理場はどうなっているでしょうか。今から別の場所へ計画するとして十年ぐらいかかるように思いますが……。

■黒滝の現在地へ永久施設をという意見もあるようですが、市民のみなさんの負担をできるだけ少なくすることを第一に考えもうすこし時間をかけて検討させてください。しかし、この問題は深刻で、市独自で早急に見通しをつけなければならないことはよくわかっています。

□下田川の改修はどうなっていますか。市の不燃物の集積場への消毒用の石灰が下田川へ流れこんでいるので善処してください。

■改修は被害の多い所からやります。地下水の検査をしましたが、飲料には不適ではありません。

□国保税の納期が九月から三月まで七回となり、固定資産税の納期とかさなる時があり、納税者にとって負担が大きいとの声をよくききますので、もし可能なら平準化を検討してください。

□予防接種の通知は必ず「部落連絡員」を経由してくれませんか。

■個人通知以外は全部「広報」へのせていますのでご覧ください。

□明見の運動場の進み具合は。

■県の事業なのではっきりしたことはわかっていないが、だれでも自由に使用できるようにはならないかもしれません。

★財政問題説明から

54年度の予算編成基本方針

■財政問題説明のなかから……

五十四年度一般会計予算を編成するにあたり、次の基本方針をかねて設置されている「財政再建審議会」（市議会議員十五名で構成＝松本二郎会長）にはかり、極力経費節減に努めるという条件つきで了承され、三月議会を経て発効しました。

基本方針は次のとおりです。

(1) 経費節減を第一に努めるが、臨時措置として行ったものは一部もとへもどす。

(2) 個人市民税の税率を標準にもどす。

(3) 一般職員の昇給凍結を正常にもどす。

(4) 職員採用は十七名とする。

(5) 議会議員以外の特別職の報酬は当初予算に計上しない。

(6) 各種事業は補助対象を優先して、単独事業は財源の見通しがついたら行うこととする。

(7) 赤字解消のための開発公社への支払いは、当初予算で一億円とする。二億円の解消はかなり困難である。

(8) 補助金の引き上げは原則としてしない。

(9) 空港周辺対策事業関係費（約一億九千万円）は特別会計とする。

□稲生―十市間の市道（本村線）は曲りくねっているうえに、夏になると草がしげり、よけいに見通しが悪くなって危険なので、管理者である市に刈り取ってもらいたい。

□焉ヶ池中学校跡地のグランドは好評ですが、夜間照明の設置は無理でしょうか。

■その要望は承知していますが、公害や近隣への迷惑などの心配があるためすぐに設置というわけにはいきません。

□図書の貸出しの方法をよく検討してください。たとえば部落単位にするとか、日、祭、休日の開館などを……。

■予算的にもきびしいため、本の数も、設備も不十分ですが、徐々に充実さしていきたいと思います。こまかいことはこれから部内で検討します。

□図書館という「本を読むだけの場所」だけでなく、市民の出会いの場所、人間関係をつくる場所の要素もふくんだ図書館でありたいですね。

□南国市内へ普通高校をといわれて久しくなりますが、父兄としては高知へ通学さすと経済的にも精神的にも大きな負担となります。ぜひ早期実現をお願いします。

■毎年運動しているのですが、実現できず残念です。引き続き運動していきます。

□毎年衛生委員さんを通じて家庭用殺虫剤をお世話していただいていますが、薬剤が届くのが遅れて効果が半減します。できるだけ早く届けてください。

□消防団から毎年寄付をという声がかかり、慣習となっているので出していますが、経理を明らかにしてもらいたいですね。

□笠の川の西側にある、もとのみかん園、大平山はこれからどのようになるのでしょうか。

■ある観光会社が買ったといううわさです。開発の方法は未定です。

最後に、国沢助役が「この一年間、ありがとうございました。いただいた貴重なご意見は、財政の健全化を考えあわせながら真剣に取り組むつもりです。これからも引き続いて市政にご協力をいただくとともに見守ってください。」とあいさつをして、会を終りました。

なお、市政モニター制度は今回で四回目を終りましたが、ここで一応ひとやすみさしていただきます。

『南国市史（上巻）』予約受付

申込みは6月30日までに

未来に向って、正しく、雄々しくはばたこうとする者は、先人が郷土の発展のために、いかに情熱をかたむけ、いかにたくましくその時代に生きたかを学びとる必要があると思います。

市制二十周年を迎える今年秋、昭和四十八年以来研究が続けられてきた待望の『南国市史（上巻）』が発行されることは非常に意義深いものがあります。

執筆者は、元高知高専教授、理学博士、故島田豊寿先生、高知大学名誉教授、山本大先生、高知女子大学教授、岡本健児先生、高知ろう学校教諭、広田典夫先生などその世界の権威のみなさんが、研究のすべてを投入されるもので、完成すれば市の歴史をきわめるだけでなく、県の歴史を語る上でも貴重な資料として高く評価されるでしょう。

上巻の目次概要は次のとおり

■第一編、地理（自然、人口）
第二編、原始（土佐のよあけ）
第三編、古代（古墳奈良平安）
第四編、中世（鎌倉、室町）

■上巻予約価格・五千円

■申込期限・六月三十日

■申込方法・五月中旬にお届けする申込用紙のほか、電話、ハガキでも結構です。

■申込み先・市教育委員会社会教育課（内線314）まで。

西内氏・大川氏が再選

県会議員選挙結果

高知県議会議員選挙は四月八日投票、即日開票の結果、南国市選挙区（定数2）では、西内四郎氏（自民）と大川邦明氏（自民）の現職が、新人の中村寅八氏（社会）をおさえ再選されました。

南国市の当日有権者数は三万二千二百四十一人。あいにくこの日は〝台風〟を思わせるような風雨……どの投票所も投票率がのびず関係者らを心配させました。この雨は午後二時ごろあがり、投票者の〝出足〟も徐々にのびましたが、この日の投票者は一万九千四百四十四人、投票率六〇・三一％と、前回の県議選（五十年四月十三日）の七二・二六％を約一二％下回る低い投票率となりました。

7、144	㊟大川邦明（自現）
4、657	中村寅八（社新）
7、424	㊟西内四郎（自現）